○１０月の人権に関する月間・週間・記念日　「精神保健福祉普及運動」「国際高齢者デー（１０月１日）」「犯罪被害者支援の日（１０月３日」

十島村教育委員会だより　平成 29 年９月号

むらやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

９月‥児童生徒数 100 名をめざして

十島村教育長　有村孝一

9 月 16 日には、台風 18 号が村を通過しました。台風のたびに被害がないかとても心配して緊張するのですが、今回はそれほどの大きな被害もなく、学校も窓ガラスのひび割れなどわずかでした。とはいうものの、被害がなかったわけではありませんので、被害のあったところは早く元通りになることを願っています。

またその日は、悪石島、平島、諏訪之瀬島については、運動会が計画されていました。島の方々のご協力により、延期はしましたがそれぞれの実情に合わせて、実施できたことはよかったと思います。諏訪之瀬島では、山海留学生が最後の運動会ということで、応援に来る保護者のために、船便に合わせて平日に実施していただき感謝しています。

今後もまだ、台風の発生が考えられますので、気象状況には十分注意していただきたいと思います。

さて、山海留学生といえば、9 月 1 日から始まりました 2 学期に、新たに平島に小学校 5 年生が 1 名、小宝島に中学校 2 年生が 1 名増えました。始まって約 1 カ月ですが、毎日元気に登校し、あいさつをしているという話を聞くと、大変うれしく思います。

さまざまな理由により島に来ている子どもたちですが、みんな島の風をいっぱい感じて、元気よく通っています。

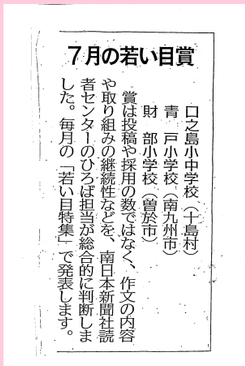
村では、平成 3 年度から留学生の受入を実施しており、平成 29 年度までに延べ 287 名を受け入れています。地元児童生徒にとって、留学生との出会いは年代層の共通した話題や高校進学、生活面などのさまざまな情報交換を図る機会となっています。

また留学生は、里親家族との生活を通して、人としての在り方や心のふれあい、大切さを学び、極小規模校ならではのマンツーマン授業による学力の向上など、今後のよりグローバルな社会を生き抜く資質や能力の基盤づくりの点で大きな成長をしています。

本年度は、各島に「山海留学制度支援委員会」等の名称で、制度の安定化や受け入れ家庭の確保のために話し合いを持つ組織もできました。

また一方で、平島には山海留学生寮を新築し、口之島には既存の施設を改築し、それぞれ寮監を依頼して、児童生徒の確保のために力を入れているところです。2学期は、口之島に2名、宝島に１名の転入生を迎えまして、小学生５７名、中学生２９名の合計８６名でスタートしました。村では、100名規模を目指しています。村民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

南日本新聞「若い目賞」
口之島小・中学校受賞！おめでとうございます。


7月の若い目賞

口之島小中学校（十島村）
青　戸小学校（南九州市）
財　部小学校（曽於市）

賞は投稿や採用の数ではなく、作文の内容や取り組みの継続性などを、南日本新聞社読者センターのひろば担当が総合的に判断しました。毎月の「若い目特集」で発表します。

３月の中之島小中学校に続き、本年度２校目の快挙です。

新聞に掲載されると自信がつくと同時に、やる気も湧くことでしょう。

毎朝新聞を読む楽しみも増えました。支えてくれる御家族や里親、先生方の適切な御指導に感謝しています。ありがとうございました

県図画作品展入選
おめでとうございます。
悪石島小学校４年　片野田奏さん

「子供の歌」
南日本新聞掲載
（平成29年9月5日）

きゅうしょく　とうばん

ぎゅうにゅうはこびは
ひみつがあるぞ
だれかのつくえにおいて
だれかのおぼんにいれる
きゅうしょくぎたたんだら
やりなおし
つぎはがんばるぞ

（諏訪之瀬島小一年　山崎郁矢）

２０１７・第７１回「読書週間」
期間：平成２９年１０月２７日～１１月９日
標語：「本に恋する季節」
主催：（社）読書推進運動協議会
※セブンアイランド図書、県立図書館図書があります。秋は、読書の季節です。

シリーズ――新聞に投稿（平成29年８/１４南日本新聞）
諏訪之瀬島中3年　　上野琴美

友だちに感謝

私は同じ学級にいる、雪嘉さんとの出会いに感謝しています。諏訪之瀬島中学校に初めてきて、とても緊張している私に、優しく話しかけてくれた雪嘉さんのおかげで、私はすぐ学校に慣れることができました。

雪嘉さんは学校のことや島のこと、私が分からないことを毎日のように教えてくれて、私は雪嘉さんとすぐに仲良くなることができました。

私が学校生活の中で嫌なことがあったら、雪嘉さんはちゃんと話を聞いてくれて「また何か嫌なことがあったら相談してね」と言ってくれます。雪嘉さんと友達になれてよかったと、とてもうれしく思いました。

あと８カ月もすると高校生になって、互いに会えなくなります。そう考えると少し寂しいですが、手紙のやりとりをして、大人になってもずっと仲良しでいたいと強く思います。

南日本新聞　「ひろば」欄　掲載
（平成２９年８月２６日　土曜日）
教員　久保綾菜

四季折々に感じる　平島の朝の音

わたしが暮らす十島村の平島は、人口60人余りの小さな島だ。平島に来たのは約半年前。レストランやスーパーマーケットはもちろんコンビニもない。新聞や郵便、食料品は1人1週間に2便のフェリーが運んでくるこの島で、臨時教員として社会人1年目を迎えた。

生活は、初めての1人暮らし、離島での活動だ。子どもたちや地域の人々、同僚は不安はすぐに消えた。毎日楽しく過ごしている。

そこは「朝の音」が支配する島だ。この島で感じるのは、渡り鳥の鳴き声だ。早朝から春の朝は、渡り鳥の鳴き声を聞くと、春が来たのだと感じることができる。この音を聞くと、身体が凍え、布団を夏のセミの声。ジージー鳴くその声は暑苦しさを感じる。秋の虫の声を聞くと癒やされる。

冬は鳥の起きる音。秋になると朝は、まさに夏の音だ。秋になると虫の声を聞くと、春が来たのだと感じる。

「朝の音」は、自然に感じられる朝の音を大切にしたい。（十島村）

シリーズ――十島村で学ぶ
口之島小2年　おか本　ゆうま

みんなのやさしさ

ぼくは、ロのしまにきて３年目になります。はじめてこのしまにきたときに、同きゅう生がいなくて、おともだちができるかしんぱいでした。でも、すぐに小学生のおにいちゃんがロのしまをあんないしてくれました。そして、まいにちのようにみんなが「あそぼう。」とこえをかけてくれてうれしかったです。

小学生になってからは、何もわからないぼくに、上きゅう生や中学生が学校のことをいろいろ教えてくれました。ぼくは、みんなのまえではっぴょうすることがにがてで、何もいえずこまっていると「だいじょうぶだよ。」とやさしくこえをかけてくれたので、ゆう気が出てきました。いまでは、大きなこえではっぴょうできるようになりました。

４月から２年生になって１年生が入ってきました。いままでぼくがみんなに教えてもらったので、つぎはぼくが１年生にやさしく教えてあげたいです。

第3回村民体育大会実行委員会(9/11)

１１月１２日（日）開催に向けた実行委員の詳細な協議が行われました。「和やかに　笑顔がむすぶ　村おこし」のスローガンにあるように、参加者約２１０名が笑顔に溢れ、各島間の新たな交流と村おこしに繋がることを予感させる会議でした。

課題も残っていますが、課題解決に向けた準備や調整も成功への道筋となります。十島はひとつ！

諏訪之瀬島小中学校からのメッセージ
諏訪之瀬島小中学校　教頭　池田　修

諏訪之瀬島小・中学校は開校２年目を迎えた。

周囲の方々のお力添えで、忙しくも充実した日々を送れている。

去る７月 10 日、郷土教育の一環で、奄美から観光ツアー「Ａｍａｎｉｃｏ」代表の白畑瞬さんを招いた。

諏訪之瀬島は、他島と同じく自然に恵まれた風光明媚な島である。19 世紀には２度の大噴火があり、70 年間無人となった。まもなく藤井富伝以下 27 名が奄美から移住し現在の生活基盤を築いた。戦後は暫く北緯 30 度（十島村全島・奄美や沖縄等）以南が米軍占領地となり、苦しい時代を経験した。

白畑さんは４年前の奄美日本復帰 60 周年に沖縄から奄美までをカヌーで単独縦断した。全行程３００Ｋｍ、島々に立ち寄り、占領時代を経験した方々に話を聞きながら先人の思いに寄り添った。

白畑さんは優しいまなざしで子どもたちや島民へ語りかけた。「20 歳でカヌーに出会わなければ、奄美を外海から眺める機会も先人たちに思いを馳せることもなかった。故郷である奄美の良さを再確認し、故郷のために自分ができる事を精一杯頑張りたい！」と。結びには、2018 年夏に奄美から鹿児島までの約３８０Ｋｍをカヌーで単独縦断する夢を熱く静かに語った。白畑さんはツアーガイドとアスリート（カヌー競技国体選手）、二足の草鞋で故郷の奄美を島内外に発信し続けている。

児童・生徒には、郷土教育を通して諏訪之瀬島を様々な角度から学び・感じ、やがて訪れる「島立ち」を迎えてほしい。また、島を離れてからも、いつまでも島での暮らしやお世話になった方々との縁や思い出を大切にしながら、これからの社会を歩んでほしい。

残念ながら離れてから気づくことがある。それからでもいい。

苦境に立たされた時の踏ん張りや路頭に迷った時の支え・礎が「郷土愛」ではないかと・・白畑さんの生き方から改めて感じ、学ぶことだった。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ」

あなたの頑張りは誰かが見てくれている。大丈夫！

あなたの悩む姿を誰かが憂いてくれている。孤独じゃない！大丈夫！！

焦らず地道にこつこつと。その直向きな思いや頑張りは子どもたちの先々の幸せに繋がる。私は教員採用試験に合格したあの日を、母と泣いて喜んだあの日を忘れない。日々、教壇に立てることに感謝している。これからも向学の志と情熱を持ち続け、日々研鑽を積みながら、子どもたちの未来のために「小さな汗」を流していきたい。あなたと共に・・